

おうちのはなし

254

反射を何度もくり返して、部屋の隅に快い闇をつくり上げる。大地を焦がす太陽レーザー光も、レースの糸に拡散されて柔らぐ。あるいは葉緑素が集う植物に吸収されて、静かに息を吐く。



住まいの性能と機能

どんな時代や地域にあっても、家がなくて暮らせる家族はいません。住まいは本当に大切な生活の器です。阪神淡路大震災や、東日本大震災などの災害を聞くほど、なおさら暮らす住まいがあることに安心感を覚えます。家族の安心感というものは、住まいの安全と快適さに守られているものです。

ところがこの安全と快適さは、単純なものではありません。たとえば、より性能の高い住まいにしておけば、それで良いというわけにもいかないのです。

もちろん性能の高い家が、良い家の要素であることは変わりません。だからこそ、優良住宅としての評価は性能を基準に定められていて、国も強く推進を図っています。

たとえば性能では、耐震性や耐火性が、その代表です。地震が来ても倒れない家、火災に際しても燃えにくく家を性能の基準として定めています。ちょっと面白いのは、火災については、日本では被害を受けないように考え、歐米では加害を防止するように考えます。

住宅性能評価項目



快適さの家学

快適さの家学 —暮らしやすさを求めて

- ・住まいの性能と機能
- ・暮らしやすい家
- ・快適性の維持

『石』

叔父のお梅やみに行った時のことです。部屋にたくさん磨かれた石がありました。

「ねえ、これ、覚えてる？」
「あっ、懐かしい！」
すぐに思い出しました。
石ころの文鎮です。
昔、叔父が「磨いてみろ」と石ころをわたしの手のひらに置きました。

「これ、磨いたらどうなるの？」
「文鎮になる」
「…ふ~ん。やってみる」

答えた私にサンドペーパーを何枚かくれて、磨き方を教えてくれました。叔父の指示通り、水で濡らしながら磨いたり、サンドペーパーの番手を変えて磨いたりしました。



何日も磨いていると、とても美しい柄が現れ、色も鮮やかで艶々と光り、とても美しいものになりました。書道の時間はその文鎮を使い、先生に褒められたりしました。

考えてみれば、昔は学校の廊下も雑巾で磨いていました。隣のクラスと競って磨くものですから、ピカピカになって、嬉しくなって一層磨きます。先生も廊下を歩きながら驚いていました。祖父母の家の柱も磨きました。背の届く範囲でしか磨けないので、柱が2層のコーヒーゼリーのような色合いになったのを覚えています。

家の中に磨き上げる部分があると、時間が刻まれるような気がします。叔父の笑った顔の写真を見ながら、夏の日、汗をかきながら、石を磨き上げることに夢中になった自分を思い返しました。

ママはインテリアコーディネーター

一般社団法人 日本インテリアアソシエーション 理事長 小川千賀子

暮らしやすさを求めて 毎日暮す住まいは、なによりも快適さが大切です。ちょっとした不快さも日々重なると、ストレスが溜まってしまいます。この快適さにも、さまざまな要素があります。長い時間を過ごす住まいだからこそ、新築にしても、リフォームにしても快適さを求めておきたいものです。

いずれにしても耐火性能や耐震性能は、性能安全を守る大切な要素です。しかし現実には、地震や火災が原因となる不慮の事故で亡くなっている人の数

よりも、ずっと多くの人が日常的な室内の事故で命を落としています。

また、同じように住宅の断熱性や換気などによる空気環境や遮音性能につ

いても、高い基準の性能が定められています。

しかし、重ねて快適性は性能だけですべてがかなえられるわけではありません。たとえば地域の気候条件によって快適さが変わる以上に、家族の暮らし方によっても変わります。それ以上に、住まいの中に取り込まれるさまざまな機能を持った機器の機能性によっても大きく変わります。

お風呂やキッチンが老朽化してきたとか、モノが増えて収納が足りないことも、快適さを損なっている状況であり、性能では判断できません。そしてリフォームをしたり、新しい家を手に入れたりするための理由になります。

住宅に付随する設備機器も、毎年のように新しいモデルが出て進化しています。新しい機器は省エネルギー性も高まり環境貢献もできます。こうした住宅内に設置される機器によって、住まいの快適性が保たれています。

住宅の品質を考える時には、性能の他に機能とデザインを考えておく必要があります。快適さを確保するためには、機能やデザインも快適さに欠かせない要素になるのです。



暮らしやすい家

暮らして快適に過ごせる住まいには、どのような環境が整っているのでしょうか。性能として表示される項目以外にも、現実の暮らしの中にはたくさんの要素があります。

住まいという器の中には、空気と水、そしてヒトとモノが同居しています。快適さはこれらのすべてに関わるもので、大きく住まいの快適性を分類すれば、温熱、空気、水、光、衛生、作業、収納、家具、メンテナンス、デザインの快適性に分けることができます。下記の表に、さらに細分化した要素の一部を書き出しました。暮らしが快適であるためには、これらの要素ひとつひとつに満足感が得られなければなりません。

そして快適性を実現するためには、さまざまな設備機器のスペックをしっかり知って、使いこなす必要があります。住宅の建設に日頃から携わっている者は、それなりの知識を持ってアドバイスしてくれますが、すべてを詳しく説明できるのは彼らでも至難の技です。ましてや、こうした設備機器は日進月歩で進化しています。常に更新しながら、最新の情報を整理することも欠かせません。

その上、快適性を保つための昔からの知恵を知ることも大切です。大震災では設備機器に頼りすぎる危険性も随所で指摘されました。

温熱と空気の快適性

たとえば温熱の快適性は、今ではエアコンの性能にかかっています。でも性能が良ければ良いほど、夏の冷房ではエアコンの吹き出し口近くは寒く感じることになります。エアコンは進化し、今や人の存在を感じし吹き出す方向から強さまでを制御してくれます。

また、高性能住宅では断熱性を高めて、ヒートショックが起きないように住宅内全体の温度をコントロールして冷暖房効率を高めています。しかし部屋によって、多少の温度差があることも快適さを誘ってくれることもあります。たとえば寝室は多少温度が低い方が、良い睡眠につながります。

また、空気の温度だけでは、温熱の快適性は達成できません。人間の肌で感じる体感温度は複雑で、動物以上に放射熱やわずかな風で温熱感を感じています。さらに湿度によって汗が気化するスピードが変わることでも、人間は温度の差を感じています。その上、耳に入ってくる音でも、温度感に違いがでます。

 温熱 の快適性	断熱と遮熱 冷暖房効率 体感温度 ヒートショック 温度と放射熱 熱容量と保温
--	---

 光 の快適性	日照と日影 採光基準 遮光とカーテン 光の成分と効果 照明器具とモード 明るさと光の質
---	--



暮らしやすさを求めて

日本の住宅では、よしをたてかけ、蔓性の植物を育てて日陰をつくり、風が吹いて風鈴が鳴ることでも涼しく感じます。土間にように熱を蓄えることも、使い方次第で有効です。

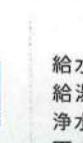
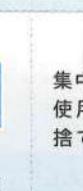
空気の快適性には、湿度と汚染の問題があります。湿度は高いとダニやカビの温床となり、低過ぎてもウィルスが繁殖しやすくなります。湿度を調整する機能は住宅の性能だけではなかなかコントロールできません。

また人も空気汚染の原因のひとつです。適度な換気を必要とし、計画的な換気にもさまざまな技術や設備機器があります。より良い空気をつくることは、間違いなく快適さに関わることです。

新しい住まいを求めるときに、真っ先に上げられるのは風通しと日当たりですが、換気と風通しは、快適性の面では、まったく別のものと考えておかなければなりません。

光と水の快適性

日当たりの良さにも快適さには限度があります。夏場に太陽のエネルギーを受け過ぎるのは問題があります。光の環境についても適度が大切です。夏場に日差しを遮り、冬には日差しの暖かさの恩恵を受けるように、昔の家は深い庇を作っていました。高断熱・高気密を進めたことで、こうした工夫が必要くなっているのではありません。

 水 の快適性	給水と排水 給湯と給湯能力 浄水器 雨水利用
 収納 の快適性	集中収納と分散収納 使用頻度 捨てる技術

逆に大切に考えなければなりません。

人工的な光である照明は、LEDの時代を迎えて大きく変わろうとしています。ただ明るければ良いという時代から、色温度や演色性という、光の質そのものを考えて快適性を追求することができるようになりました。小型化することで、さまざまな部位に照明を配置でき、デザインの幅も広がっています。電球交換の煩わしさもほとんどありません。

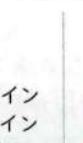
水の快適性にも、多くの機器があります。浄水器はもちろん、石鹼を使わなくてきれいになる微小な気泡のお風呂もあります。

作業の快適性

作業の快適性が強く求められるのは水周りです。キッチンも、その代表的な場所です。

現代の女性の身長が伸びたことや、男性もキッチンに立つことなどから、キッチンの天板の高さは昔に比べて高くなりました。

たとえばシンクを使う時、洗い物をするのに腰を折る必要がないよう快適な高さを設定します。ところがコンロに関しては高くなったことで、高鍋の使い勝手が悪くなったりと感じる人もいます。同じキッチンの中でも、作業が違えば高さの快適性も違うのです。最近では建設会社の大工工事で、手作りのキッチンを作る人たちもいます。

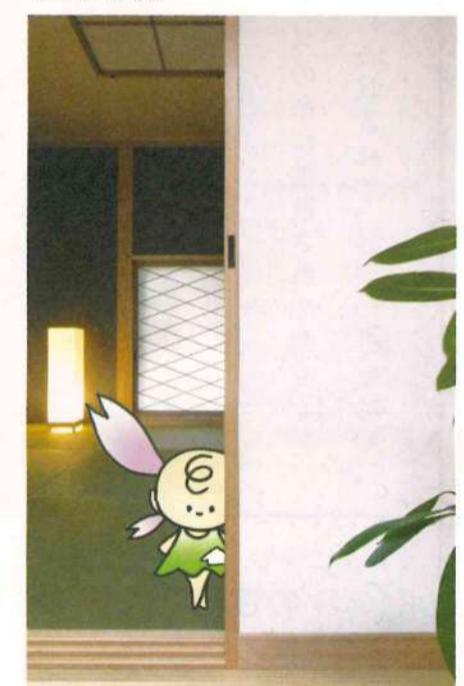
 衛生 の快適性	汚物と清潔感 浴室と入浴習慣 洗面と生活雑貨 洗たくとアイロン掛け トイレと動線
 作業 の快適性	キッチンと調理動線 シンクの作業性 コンロの作業性 家事動線

また、電動歯ブラシの普及により、歯みがきが変わってきたという話しを聞きます。洗面台の前ではなく居室にて歯みがきをする人が増えているのです。もしかしたらちょっとした別の洗面台を追加することで、水周りの快適さが格段に変わるかもしれません。

収納や家具、さらにはメンテナンスやデザインにも快適性があります。

収納も、ただ多く広くつければ良いというものではありません。主寝室に作ったウォークインクローゼットが、意外と使いにくいと考えている人もいます。出かける前の動線が、複雑になるのです。コートなどの上着は、家族の分をまとめて玄関近くにしまった方が機能的です。しかも花粉症の時期などは、家の奥にまで花粉を持ち込まずにすみます。

また、ヒトとモノとの快適性の関係は、どちらかというと個人のスキルに関わっている面が大きくなります。そのため、収納のテクニックを習うサークルも開かれ、捨てる技術を磨く人たちもいます。



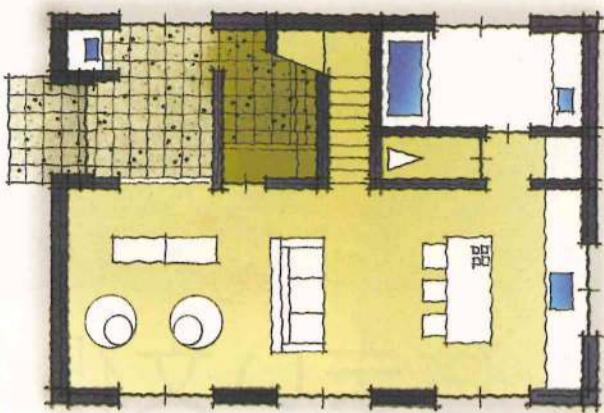
快適性の維持

住まいの快適性は、求めればきりがありません。しかし、気づかなければ不快だと思うこともないでしょう。人間は順応性に優れているので、多少の不快さは日常の行動に紛れて感じられなくなることもあります。

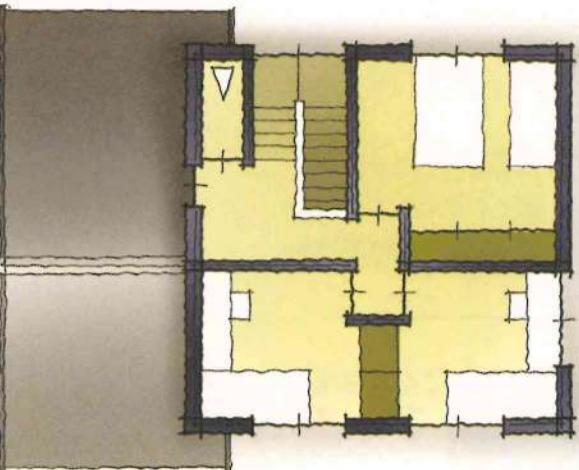
でも、暮らしやすさを求めるためには、ちょっとした不快さに気づく必要があります。そして、快適さを求め続けるからこそ、少しずつ解決してより快適な住まいに近づいてゆくのです。不快さを感じた時には、快適さへのシグナルと前向きに受けとめてください。そして、家の性能だけではなく、じっくり話してくれる建設企業とおつき合いすることがなによりです。

 家具 の快適性	家具と部屋の機能 テレビとステレオ ハレとケ
 メンテ の快適性	現状維持と修繕 部品交換 リモデリング

モ
ニ
チ
ル
マ
ド
リ



1F 17.3坪 2F 12.3坪 TOTAL 29.5坪



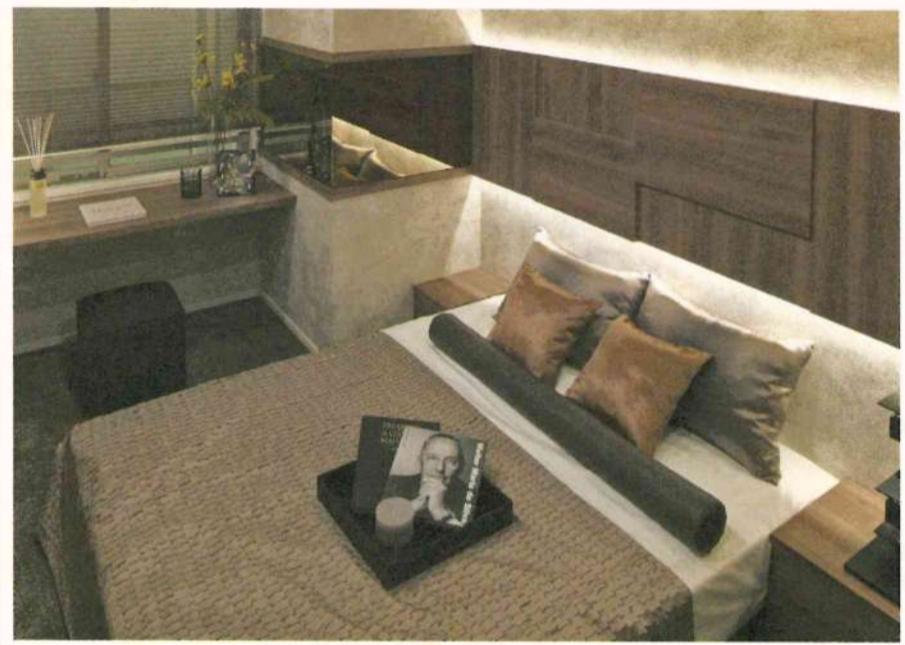
懐しき標準住宅

プライベートルームをできる限りコンパクトにつくり、その分大きな20帖のLDKを確保する。ホールや廊下を介さず、直接LDKにつながる玄関には、スケルトン状の収納シェルフで仕切り、自分流のコーディネートで出迎える。



表情豊かな壁面デザイン

ウッドパネルに立ち上がりをもたせ、縦目、横目の組合せで、表情豊かな壁面デザインに。また家具の高さを少し低めに設定して、天井をより高く感じられる工夫をしました。



ベッドルーム

サイドテーブル	デザインクラブオリジナル	ベッドカバー	WIND/MAGIC 6
カウンター	デザインクラブオリジナル	クッション	デザインクラブオリジナル
スツール	RELAXFORM/キューブモード #18	ピロー	GOYO/SD02402
スタンドライト	YAMAGIWA/S7349	ボルスター	シンコール/L-1646
照明BOXシート	DNP/WS-5135E	カーベット	サンゲツ/LO-1(51)
ブリーツスクリーン	タチカワブラインド/PS-4734	アクセントクロス	サンゲツ/FE-4121
柱型 木枠	DNP/WS-5135E		

www.sumarepi.jp/ **すまれぴ**



快適さを知る心

人の脳の働きには奥深いものがあります。懸命に考え事をし、学習を重ねても、脳の能力の1割も使ってないと言われます。脳には、まだわからぬ機能があるのです。

たとえば、肥満は脳の失調から起きていると考えられています。本当に身体が求めている量の栄養を取れば、体のバラ

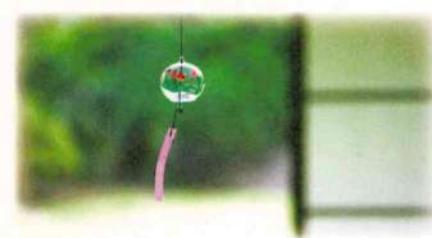
ンスは取れるはずであり、過剰に栄養を取ることは脳のバランスが取れていなければ証拠であると考えられます。

そのためには、食べ物は好き嫌いで食べるのではなく、おいしいかおいしくないかで決める必要があります。美味しいから好きではなく、身体が求めていることで味も変わっています。

運動をして汗をかけば糖分や塩分が消費され、それを補うように脳は味の感じ方を変えています。そのため運動のあとでは、塩気や甘みを美味しく感じます。自分の好物でも、美味しく感じる時と、いつもとは違って感じる時を

区別することが、脳の判断に従った食事のあり方なのです。

同じように、住まいの環境にも温度や湿度、そして放射熱や風速の情報を肌で集めて、総合的に快適さを脳で判断しています。同じ環境の中にあっても体調によって、快・不快の感覚は変わります。当然、個人によっても違います。



その良い例が、日本人は風鈴の音に涼しさを感じます。気温や湿度はまったく変わってないので、まさに脳がつくり出している涼感です。

また、住宅内のヒートショックが問題視されていますが、湿度や放射熱は比較的均一化しても、温度や風速は人のいる場所によっても違います。住もう人が皆、同じように快適と感じるためには、各人の脳が判断する快適さとは何かを絞り込むところから始めないといけないかも知れません。

まだまだ住まいの環境づくりの技術には深い奥があるようです。

おうちのはなし

いつかは建てる、
住まいづくりのための、
情報紙「おうちのはなし」

※発行内容は予告なく変わることがあります。



日本の住宅建設の担い手
住まいづくりの手順
長期優良住宅制度
建てるなら、やっぱり木の家
家歴書の価値
洋風デザイン・和風デザイン
建築費の内訳の見極め方
住まいづくりにかかる諸経費
太陽光発電住宅特集
家庭内事故と対策
これからの住まいと暮らし

⋮

住宅情報紙「おうちのはなし」を年間購読しませんか？

年間24回発行×単価120円+配達料100円
年間5,280円(税別)
毎月1日・15日頃、ご自宅にお届けいたします。

TEL 03-6272-6434
FAX 03-6272-6449

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-8 4F

www.ouchi874.org/

一般社団法人 住まい文化研究会

リフォームに、新築に、
住まいづくりのセカンドオピニオンをお届けします。

おうちのはなし 120円

www.ouchi874.org/
発行人:一般社団法人 住まい文化研究会
〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-4-8 4F
主筆 石川新治

おうちの家計簿

こんちは、
アールです!
L.R.コンサルティング株式会社
代表取締役 吉川浩一

住宅ローンの金利って考えるポイントがいくつかあります。

- 1.どこで借りるか
- 2.種類・固定か変動か
- そして意外ですが今は

3.どんな家を建てるか

1、2については、いろんな人が記事を書かれてますが、「どんな家を建てるか」で金利が変わるというのは、ほとんどどこにも書かれていません。

というのも、今まであまり関係なかったからです。

じつは住宅金融支援機構の「フラット35sZEH」が10月からスタートします。

これはカンタンにいうと「高性能な家を建てる人には金利を優遇しますよ」ということ。

当初10年間最大0.5%の金利優遇があるんです。

金利の決定はポイント制。3つのカテゴリーに分かれています。

1. 住宅性能で選ぶ		
●【フラット35】S(ZEH)	3ポイント	●【フラット35】S(金利Aプラン)
●【フラット35】S(金利Bプラン)	2ポイント	●【フラット35】S(金利Cプラン)
	1ポイント	

2. 管理・修繕で選ぶ(【フラット35】維持保全型)		
●長期優良住宅	1ポイント	●予備認定マンション
●管理計画認定マンション	1ポイント	●管理計画認定マンション
	1ポイント	

3. エリアで選ぶ		
(【フラット35】地域連携型)	2ポイント	(【フラット35】地方移住支援型)
●子育て支援	1ポイント	●地方移住支援型
●地域活性化	1ポイント	
	2ポイント	

りに分かれています。それぞれのポイントに合わせた金利優遇が受けられます。最大の金利優遇を受けるためには、3つのカテゴリで4ポイント獲得すること。一番確実に4ポイント獲得するには、まずZEHにして【フラット35】S(ZEH)の3ポイント、そして長期優良住宅の1ポイント取ることです。

実際に金利が0.5%下がったら、どのくらい違うのか試算してみました。

金利1.5%で4000万円を35年返済で組んだ場合と1.0%で組んだ場合の月々の返済額の差は9,559円、年間で114,708円。金利優遇が10年間なので、その期間で1,147,080円も違います。

住まい文化の栄

夏あたたかく、冬すずしい

暑い夏と寒い冬の過ごし方は、住宅の最も基本的な要望になります。そして、お題目のように唱えられるのは、夏すずしくて、冬あたたかい家です。

しかし、ふと冷静になって住まいの文化から眺めてみると、エコではなくエゴのように思えていませんか。

夏は暑いものであり、冬は寒いものです。それを通り越して、涼しくて暖かい環境を実現しようとするには、それなりのエネルギーが必要です。ですから、夏は暑くないように、そして冬は寒くないようにするくらいで、ちょうど良いのかも知れません。

考えてみれば、近代のエアコンが生まれてからエゴが始まったように思えます。住まい文化の歴史の中では、じつは暖房も冷房もさまざまな要素を利用して、冷暖房を駆使していました。



茅葺きの屋根も、軒の深さも、土間も、通風も、本来であれば同じ大気の温度であるはずのものですが、冷房にも暖房にも効いていました。それは日本だけではなく、世界のどの住宅でも歴史の中から生み出された、環境への対処であったはずです。

そして、それらの多くは、意外にも室温でコントロールするものではなく、放射温度を巧みに組合せたものでした。

暖炉やストーブも、部屋の気温を高める以上に、炎の放射による暖かさが基本です。軒の出や土間も、外の放射熱を絶対的に和らげてくれるものです。同じ気温の中で、暑さや寒さを感じさせないよう工夫していたことがほとんどなのです。

温度は目に見える指標になりましたが、実際に同じ温度でも、湿度や放射によって体感温度は違って感じます。住まい文化の中には、まだまだ、研究しなければならないことは、たくさんあります。

と見られなくなることは、日本の文化も一緒に消えていくことになります。

秋の季節、山やハイキングに出かけ自然の中でかわいい日本のノギクたちに出会ったならば、ゆっくりと観察してみるとよいでしょう。かつて遠くヨーロッパから訪れたプラントハンターたちが、ノギクに出会い感動したこと想像するとロマンを感じます。ただ、絶滅が危惧されている植物たちなので、採取して持ちかえるようなことは避けましょう。英国では、山取りされた植物の販売は禁止されています。

プラントハンターたちは単に植物だけを収集したのではなく、その国の文化や人と植物のかかわりも伝えていたのです。



日本の園芸とプラントハンター

「プラントハンター(Plant hunter)」は、その名のとおり植物をハンティングする人です。その起源は、北西ヨーロッパといわれています。

17世紀から18世紀に貴族たちが、当時手に入りにくい地中海沿岸のオレンジやレモンをイタリアやスペインからアルプスを越えて運ばせたことから始まります。

その後、英国人がヨーロッパ大陸にサクランボ、オレンジ、アネモネ、チューリップなどを購入していくました。19世紀に入ると、舞台はヨーロッパからアジアやアフリカや中南米へと広がっていきます。「プラントハンター」は、貴重な種類の植物を求めるところから、徐々に植物学者が採集を担うようになってきます。

日本に訪れた英國のプラントハンターにロバート・フォーチュンという人がいます。彼は、1860年帆船マーモラ号に乗って長崎から神奈川にやってきました。日本の植物はすでにツンベリー博士やシーボルト博士によって

ヨーロッパに標本などで紹介されていましたが、植物大国の日本にはさらに多くの園芸品種もあることにロバート・フォーチュンは直面しました。「江戸と北京」の著作にも紹介されている日本原産のノギクの仲間が、彼の目に留まり、日本を象徴する花とまで紹介しています。

100年以上も経過した現在、日本では野生のノギクの仲間が少なくなっています。このような植物たちが季節ご



心地よい暮らしは、
あたらしい窓から。

組合せは全21パターン

外観色 ブラウン カームブラック ピュアシルバー ホワイト ブラチナステン

内観色 クリア ナチュラル ダークブラウン ホワイト ブラチナステン

YKK AP株式会社 お客様相談室 0120-72-4134 受付時間／月～土9:00～17:00(日・祝日・年末年始・夏期休暇等を除く)

断熱性に優れた樹脂を室内側に使った「エピソードNEO」。エアコン効率を高めながら、不快な結露も抑えます。お好みのカラーが選べて、インテリアにもマッチ。毎日の暮らしをもっと素敵に、もっと快適に彩る、あたらしい複合窓です。

※[平成28年度エネルギー基準]「建具とガラスの組合せによる開口部の熱貫流率 樹脂と金属の複合材料製建具+Low-E複層ガラス(中空層10mm以上)」 国立研究開発法人 建築研究所ホームページ内「平成28年度エネルギー基準に準拠したエネルギー消費性能の評価に関する技術情報(住宅)」による。

あたらしいアルミ樹脂複合窓

エピソードNEO

